

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ合同研究会
第27回 議事録

1. 日 時： 平成23年7月16日（土） 11:00～12:50
2. 場 所： 奈良文化女子短期大学 本館 5階（第1演習室）
3. 参加者： 17名

4. 内 容：

(1) はじめに

①参加者 自己紹介

新規参加者：丹羽 雅之（岐阜県山県市立梅原小学校教諭）
大谷 武彦（日本教育総合研究所 代表取締役）
奥谷 正義（日本教育総合研究所 所員）
安田 浩子（生駒市立壱部幼稚園教諭）
2回生：東島芙美、1回生：金本陽子

②資料確認、説明

- ・ 前回の研修グループ1日体験（学校ごっこ）の記録を紹介
（資料提供：大和郡山市教育委員会 前田嘉余子指導主事）

(2) 「徳島県幼児教育振興アクションプラン」推進事業

平成22年度徳島県幼小連携推進フォーラム資料から学ぶ：善野教授から解説

（資料提供：鳴門教育大学大学院 前田洋一准教授）

- ・ 接続期の援助及び配慮が検討されている点を先行研究資料として活用していきたい。
- ・ 5歳児の月別年間指導計画の試案を参考にしながら、本研究会において週案レベルで検討を進めていく参考になる。

(3) 接続カリキュラム（入学前第1週目）（3月12日～3月17日）

2010年度作成版の改訂及び週案作成

◆前回までに明らかになったこと、課題になったことの振り返りをした。

幼小混合グループ少人数で意見交換によって、双方の教育課程の理解と改善に役立てた。
小学校での指導を容易くすることを目的とした就学前カリキュラムではなく、就学後に子どもの育ちと学びがつながるためには、どのようなカリキュラムの改善が必要かを幼小教育に関わる者が共に検討した。

活動カテゴリーを軸として、幼小混合で3グループに分かれて話し合う。

グループごとの検討内容（前回の内容を引き継ぐ。）

<第1グループ>◆1日体験（学校ごっこ）

- ・ 発表会をもつ時期によって左右される。生活発表会は、2月中にしたらよいのではないか。
発表会は、保育活動の集大成である。
- ・ 幼児にとっては、入学前に小学生と出会うことによって、入学したときに親しみや安心を感じる。（入学時点では、1年生と2年生）
- ・ 幼児がもっている「期待や希望」を広げる活動とする。

- ・一日体験後、幼児が何をするかを想定する。(板東幼稚園・小学校幼小接続のためのP30参照)
- ・入学後に環境の違いによる物理的な要素での不安を軽減させることができる。
- ・基本的な生活習慣が少しでもスムーズに定着できるようにする。
- ・幼児が、入学前に何を不安と感じるのかを取り出していき、それらの不安を取り除いていく。(1日体験の様子を写真で園内に掲示することによって、保護者の不安も軽減された事例紹介)
- ・連携の「ずれ」がおこらないように、幼稚園・保育園と小学校の教職員が話し合う。
- ・小学生のイベント的な合奏や発表会でなく、日常的な学習の仕方に触れることを幼児は期待している。
- ・小学校では、次年度の1年の担任に今年度の担任が引き継いでおく。
- ・今後、1日入学の日案を具体的に作成していく。

<第2グループ>◆遊び・制作活動

- ・年間計画表に基づいて取り組む。
- ・メッセージカードに一言指導者と共に書く。
- ・サインペン等の持ち方の指導をどうしたらよいか難しい。
- ・絵と文字の指導が幼小で異なる。
- ・文字に対して、関心や意欲がもてる子どもにすることが大切である。
- ・幼児期の環境の中でどのように醸成していくか検討していく。
- ・制作活動は特に技能面での格差もあり、時間を見通して行動することの難しさがある。
- ・入学前に小学校生活の時間枠を意識させる活動を組み込むことも必要である。

<第3グループ>◆春の自然

- ・「春探し」を通して、幼稚園・保育所と小学校の共通のものを発見しながら活動することも大切である。
- ・目的が違うので同じものを栽培することの意味を確認する。
- ・「体験の経験化」として、言語化していく児童期を見据えて、幼児期ならではの自然との関わりを十分にさせる。
- ・保護者に対しても幼児期と児童期の「アサガオ栽培のねらいや関わりの違い」を説明できることが大切である。

5. 次回の予定 平成23年9月17日(土) 11:00~12:30

*毎月定例は、第3土曜。(8月は開催しておりません。)